

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5586510号
(P5586510)

(45) 発行日 平成26年9月10日(2014.9.10)

(24) 登録日 平成26年8月1日(2014.8.1)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 71/12 (2006.01)

B 6 5 D 71/00

F

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2011-67876 (P2011-67876)
 (22) 出願日 平成23年3月25日(2011.3.25)
 (65) 公開番号 特開2012-35911 (P2012-35911A)
 (43) 公開日 平成24年2月23日(2012.2.23)
 審査請求日 平成25年10月11日(2013.10.11)
 (31) 優先権主張番号 特願2010-161753 (P2010-161753)
 (32) 優先日 平成22年7月16日(2010.7.16)
 (33) 優先権主張国 日本国(JP)

(73) 特許権者 598177119
 レンゴー・リバーウッド・パッケージング
 株式会社
 東京都港区港南2丁目16番1号
 (74) 代理人 100074206
 弁理士 鎌田 文二
 (74) 代理人 100130513
 弁理士 鎌田 直也
 (74) 代理人 100117400
 弁理士 北川 政徳
 (74) 代理人 100130177
 弁理士 中谷 弥一郎
 (74) 代理人 100151024
 弁理士 前田 幸嗣

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 手詰めマルチパック

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

頂板(1)の周囲にコーナー部を挟んで隣り合う各一对の側板(2)及び端板(3)を連設し、側板(2)及び端板(3)を下方へ折り曲げ、側板(2)と端板(3)とを固定して容器の外周に沿わせ、容器を係合させてその抜け落ちを防止するマルチパックにおいて、前記側板(2)に側方へ延びる帯板部(8)を設け、この帯板部(8)の先端部分に下方へ向けて係止片(9)を突設すると共に、上方へ延びる当止片(10)を設け、端板(3)の下端に内折板(13)を連設して、端板(3)と内折板(13)との境界部分に係止穴(14)を設け、帯板部(8)を端板(3)の内側に重なるように曲げ、係止片(9)に係止穴(14)に差し込み、内折板(13)を内側上方へ折り曲げて、集積した容器の上部に被せた包装状態で、当止片(10)が頂板(1)の裏面に当接する位置を帯板部(8)の揺動限度として、係止片(9)の係止穴(14)からの抜け出しを防止することを特徴とする手詰めマルチパック。

【請求項 2】

頂板(1)の周囲にコーナー部を挟んで隣り合う各一对の側板(2)及び端板(3)を連設し、側板(2)及び端板(3)を下方へ折り曲げ、側板(2)と端板(3)とを固定して容器の外周に沿わせ、容器を係合させてその抜け落ちを防止するマルチパックにおいて、前記側板(2)に側方へ延びる帯板部(8)を設け、この帯板部(8)の先端部分に下方へ向けて係止片(9)を突設し、また、帯板部(8)の下縁に凹部(11)を設け、端板(3)の下端に内折板(13)を連設して、端板(3)と内折板(13)との境界部分に係止穴(14)を設け、帯板部(8)を端板(3)の内側に重なるように曲げ、係止片(9)に係止穴(14)に差し込み、内折板(13)を内側上方へ折り曲げ

10

20

て、集積した容器の上部に被せた包装状態で、凹部(11)の側縁に端板(3)と内折板(13)の境界部の側縁が当接する位置を帯板部(8)の揺動限度として、係止片(9)の係止穴(14)からの抜け出しを防止することを特徴とする手詰めマルチパック。

【請求項 3】

頂板(1)の周囲にコーナー部を挟んで隣り合う各一对の側板(2)及び端板(3)を連設し、側板(2)及び端板(3)を下方へ折り曲げ、側板(2)と端板(3)とを固定して容器の外周に沿わせ、容器を係合させてその抜け落ちを防止するマルチパックにおいて、前記側板(2)に側方へ延びる帯板部(8)を設け、この帯板部(8)の先端部分に下方へ向けて係止片(9)を突設し、端板(3)の下端に内折板(13)を連設して、端板(3)と内折板(13)との境界部分に係止穴(14)を設けると共に、係止穴(14)を形成する切込により舌片(15)を設け、帯板部(8)を端板(3)の内側に重なるように曲げ、係止片(9)を係止穴(14)に差し込み、内折板(13)を内側上方へ折り曲げて、集積した容器の上部に被せた包装状態で、端板(3)の下端から突出した舌片(15)が係止片(9)の外側に重なって、係止片(9)の押し上げによる係止穴(14)からの抜け出しを防止することを特徴とする手詰めマルチパック。

10

【請求項 4】

前記側板(2)に下端から内側へ折り曲げる重合部材(16)を連設し、重合部材(16)には、側板(2)及び頂板(1)の内面にそれぞれ重なる内側板(17)及び内頂板(18)と、内頂板(18)の両端から延出されて端板(3)の内面に重なる内端板(19)と、対向する内端板(19)を繋ぎ両端部が内端板(19)に切り込まれた取手帯(20)とを設け、この取手帯(20)を頂板(1)の開口部(22)から引き出して、把持できるようにしたことを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の手詰めマルチパック。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、複数本の飲料ボトル等の容器を纏めて持ち運べるようにするマルチパックに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種のマルチパックとして、下記特許文献 1 には、図 11 に示すように、ボトル B の首部が挿通される複数の容器保持穴 54 を有する頂板 51 の周囲に、コーナー部を挟んで隣り合う各一对の側板 52 及び端板 53 を連設し、側板 52 及び端板 53 を下方へ折り曲げて、端板 53 の側方への延長部をボトル B の外周に沿って湾曲させ、この延長部を側板 52 に接着して、側板 52 と端板 53 とを固定し、容器保持穴 54 の周縁に設けた抜止片 55 でボトル B の抜け落ちを防止する板紙製のものが記載されている。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特表平 8 - 509944 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0004】

ところで、店頭で配送用段ボール箱を開封し、1本ずつばらばらに大量陳列されたボトルを、複数本纏めて販売する場合、持ち運びの利便性を向上させ、レジでの精算の手間を軽減するため、これらのボトルを一単位として包装したいという要望がある。

【0005】

しかしながら、上記のようなマルチパックでは、包装作業に接着を伴うことから、店頭で手作業により簡単に包装することができないという問題があった。

【0006】

そこで、この発明は、複数本の容器を纏めて、手作業で簡単に包装できるようにすることを課題とする。

50

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するため、この発明は、頂板の周囲にコーナー部を挟んで隣り合う各一对の側板及び端板を連設し、側板及び端板を下方へ折り曲げ、側板と端板とを固定して容器の外周に沿わせ、容器に係合させてその抜け落ちを防止するマルチパックにおいて、前記側板に側方へ延びる帯板部を設け、この帯板部の先端部分に下方へ向けて係止片を突設し、端板の下端に内折板を連設して、端板と内折板との境界部分に係止穴を設け、帯板部を端板の内側に重なるように曲げ、係止片に係止穴に差し込み、内折板を内側上方へ折り曲げて、集積した容器の上部に被せるようにしたのである。

【0008】

10

また、前記帯板部の先端部分に上方へ延びる当止片を設け、この当止片が頂板の裏面に当接する位置を帯板部の揺動限度として、係止片に係止穴からの抜け出しを防止することとしたのである。

【0009】

また、前記帯板部の下縁に凹部を設け、この凹部の側縁に端板と内折板の境界部の側縁が当接する位置を帯板部の揺動限度として、係止片に係止穴からの抜け出しを防止することとしたのである。

【0010】

さらに、前記係止穴を形成する切込の内側に、内折板の折り曲げに伴い、端板の下端から突出する舌片を設け、この舌片に係止片の外側に重なって、係止片の押し上げによる係止穴からの抜け出しを防止することとしたのである。

20

【0011】

また、前記側板に下端から内側へ折り曲げる重合部材を連設し、重合部材には、側板及び頂板の内面にそれぞれ重なる内側板及び内頂板と、内頂板の両端から延出されて端板の内面に重なる内端板と、対向する内端板を繋ぎ両端部が内端板に切り込まれた取手帯とを設け、この取手帯を頂板の開口部から引き出して、把持できるようにしたのである。

【発明の効果】

【0012】

この発明に係る手詰めマルチパックでは、側板の帯板部を容器の外周に沿わせ、係止片に係止穴に差し込んで、内折板を内側へ折り曲げるだけで、接着を伴うことなく、側板と端板とを係合させて固定できるので、複数本の容器を店頭で手作業により簡単に纏めて包装することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】この発明の第1実施形態に係る手詰めマルチパックのブランクを示す図

【図2】同上の組立過程を裏面側から示す斜視図

【図3】同上の組立過程を裏面側から示す斜視図

【図4】同上の組立状態を裏面側から示す斜視図

【図5】同上のボトルを纏めて包装した状態を示す斜視図

【図6】この発明の第2実施形態に係る手詰めマルチパックのブランクを示す図

40

【図7】同上の組立過程を裏面側から示す斜視図

【図8】同上の組立過程を裏面側から示す斜視図

【図9】同上の組立状態を裏面側から示す斜視図

【図10】同上のボトルを纏めて包装した状態を示す斜視図

【図11】従来のマルチパックによる包装状態を示す斜視図

【発明を実施するための形態】

【0014】

まず、この発明の第1実施形態を図1乃至図5に基づいて説明する。

【0015】

このマルチパックは、図1に示すような板紙製ブランクから形成される。このブランク

50

では、正方形の頂板 1 の周囲に、コーナー部を挟んで隣り合う各一对の側板 2 及び端板 3 がミシン目状の切目を有する折目線を介して連設されている。

【 0 0 1 6 】

頂板 1 には、各コーナー部の内側に、ボトルの首部が挿通される 4 個の容器保持穴 4 が設けられ、容器保持穴 4 の周囲には、抜止片 5 が設けられている。また、中央寄りに 2 個の指穴 6 が繋部付きの半円状の切目線を入れて設けられている。

【 0 0 1 7 】

側板 2 には、中間部にボトルの肩部に沿わせるための中折線 7 が入れられ、両側に側方へ延びる帯板部 8 が設けられている。帯板部 8 の先端部分には、組立時の下方へ向けて係止片 9 が突設されると共に、上方へ向けて当止片 10 が延設されている。また、係止片 9 の内側縁に臨んで凹部 11 が設けられている。

10

【 0 0 1 8 】

端板 3 には、中間部にボトルの肩部に沿わせるための中折線 12 が入れられ、組立時に下端となる先端側に、内折板 13 が折目線を介して連設されている。端板 3 と内折板 13 との境界部分には、内折板 13 へのコ字状の切込により係止穴 14 が設けられ、その切込の内側に舌片 15 が形成されている。

【 0 0 1 9 】

このブランクを組み立てて、店頭でボトルを包装する際には、図 2 に示すように、ブランクを裏向けた状態で、頂板 1 から各一对の側板 2 及び端板 3 を起こすように折り曲げ、図 3 に示すように、側板 2 を中折線 7 に沿って屈曲させつつ、帯板部 8 を端板 3 の内側に重なるように湾曲させ、係止片 9 を係止穴 14 に差し込む。

20

【 0 0 2 0 】

次に、図 4 に示すように、内折板 13 を内側へ折り曲げると、内折板 13 が凹部 11 に嵌合し、係止穴 14 の内側の舌片 15 が起き上がって端板 3 から突出すると共に、側板 2 の反発により、係止片 9 の外側縁が係止穴 14 の両側縁に当接して、側板 2 と端板 3 との係合状態が維持される。

【 0 0 2 1 】

その後、図 5 に示すように、マルチパックを正転させ、端板 3 の下部を指で押さえながら、2 本ずつ 2 列に集積した 4 本のボトル B の上部に被せ、ボトル B の首部を下方から上方へかけて容器保持穴 4 に挿通する。

30

【 0 0 2 2 】

これにより、容器保持穴 4 の周囲から抜止片 5 が起き上がり、その先端がボトル B の首部に当接して、ボトル B の抜け落ちが防止され、側板 2 及び端板 3 がボトル B の肩部に沿って中折線 7, 12 で折れ曲がり、ボトル B の上部外周を包囲する。また、帯板部 8 の先端部分が端板 3 と内折板 13 とで挟持される。

【 0 0 2 3 】

このように、上記マルチパックでは、側板 2 の帯板部 8 をボトル B の外周に沿わせ、係止片 9 を係止穴 14 に差し込んで、内折板 13 を内側へ折り曲げるだけで、接着を伴うことなく、側板 2 と端板 3 とを係合させて固定できるので、4 本のボトル B を店頭で手作業により簡単に纏めて包装することができる。

40

【 0 0 2 4 】

そして、これらの 4 本のボトル B を一単位として店頭のレジで精算することにより、精算の手間を軽減でき、また、指穴 6 の切目線の内側を押し込んで、指穴 6 に指を入れることにより、容易に持ち運ぶことができる。

【 0 0 2 5 】

ここで、上記包装状態において、側板 2 が外側から押されると、帯板部 8 が揺動して係止片 9 が上昇し、係止穴 14 から抜け出そうとするが、当止片 10 が頂板 1 の裏面に当接し、また、端板 3 と内折板 13 の境界部の側縁が凹部 11 の側縁に当接して、帯板部 8 の揺動が規制されるので、係止片 9 の係止穴 14 からの抜け出しが防止される。

【 0 0 2 6 】

50

また、端板 3 の下端から突出する舌片 1 5 が係止片 9 の外側に重なるので、舌片 1 5 の下端に指を掛けてマルチパックを持ち上げようとした場合等においても、係止片 9 の押し上げによる係止穴 1 4 からの抜け出しが防止され、包装状態が維持される。

【 0 0 2 7 】

次に、この発明の第 2 実施形態を図 6 乃至図 1 0 に基づいて説明する。なお、この実施形態では、上記第 1 実施形態と共通の部分についての説明は省略し、特徴的部分についてのみ言及する。

【 0 0 2 8 】

このマルチパックは、図 6 に示すような板紙製のブランクから組み立てられる。このブランクでは、一対の側板 2 に、中折線 7 の位置から重合部材 1 6 がそれぞれ連設されてい

10

【 0 0 2 9 】

頂板 1 の中間部には、繫部付きの切目線に囲まれた把持片 2 1 が設けられ、その周囲の切目線により開口部 2 2 が形成されるようになっている。把持片 2 1 の両側部は、取手帯 2 0 の両側縁に対応するミシン目状の折目線から弧状に膨出している。この膨出部分に対応して、内頂板 1 8 は、取手帯 2 0 の側縁から弧状縁をなすように切り抜かれている。

【 0 0 3 0 】

このようなブランクを組み立てる際には、図 7 に示すように、ブランクを裏向けた状態で、重合部材 1 6 を内側へ折り曲げ、図 8 及び図 9 に示すように、一対の重合部材 1 6 の取手帯 2 0 を重ねて貼り合わせ、第 1 実施形態のものと同様に組み立てる。このとき、把持片 2 1 を頂板 1 から切り取り、開口部 2 2 から露出した取手帯 2 0 の表面に把持片 2 1 を貼り付け、取手帯 2 0 を抱き込むように把持片 2 1 の両側部を折り曲げておく。

20

【 0 0 3 1 】

そして、図 1 0 に示すように、マルチパックを正転させ、4 本のボトル B を纏めて包装すると、開口部 2 2 の弧状部分に手を入れて、取手帯 2 0 を開口部 2 2 から引き出し、把持片 2 1 を把持することにより、ボトル B を容易に持ち運ぶことができる。

【 0 0 3 2 】

このとき、荷重の作用に伴い、取手帯 2 0 の両端部が内側へ傾き、取手帯 2 0 を上方へ大きく引き出すことができるので、把持片 2 1 を握りやすくなる。

30

【 0 0 3 3 】

また、重なり合った取手帯 2 0 を把持片 2 1 の貼付により補強しているので、取手帯 2 0 が千切れることなく大きな荷重に耐えることができ、取手帯 2 0 の両側縁を把持片 2 1 で覆っているので、手が痛くなることもない。

【 0 0 3 4 】

また、把持片 2 1 は、頂板 1 の開口部 2 2 をなす切抜部分を利用しているので、材料の使用量が増加することもない。

【 0 0 3 5 】

なお、上記各実施形態では、4 本のボトル B を保持するものを例示したが、頂板 1 等を

40

【 0 0 3 6 】

また、ボトル B に替えて、缶を保持するものとしてもよい。この場合、側板 2 及び端板 3 の少なくとも一方の上部に、缶のフランジが係合するスリット状の容器保持穴を設けることにより、缶の抜け落ちを防止すればよい。

【符号の説明】

【 0 0 3 7 】

- 1 頂板
- 2 側板
- 3 端板

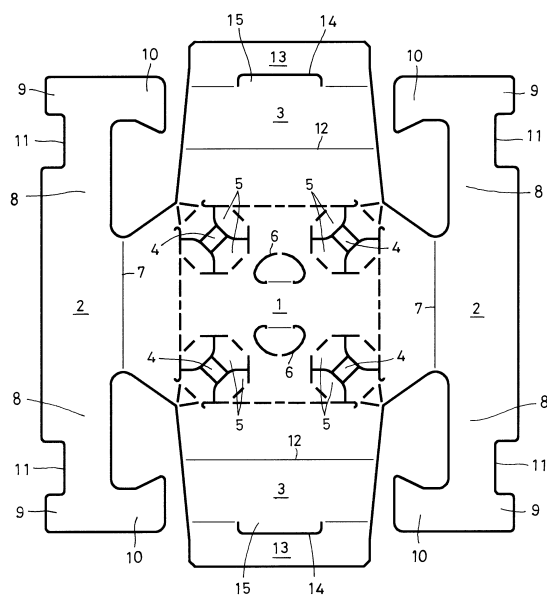
50

- 4 容器保持穴
- 5 抜止片
- 6 指穴
- 7 中折線
- 8 帯板部
- 9 係止片
- 10 当止片
- 11 凹部
- 12 中折線
- 13 内折板
- 14 係止穴
- 15 舌片
- 16 重合部材
- 17 内側板
- 18 内頂板
- 19 内端板
- 20 取手帯
- 21 把持片
- 22 開口部
- B ボトル

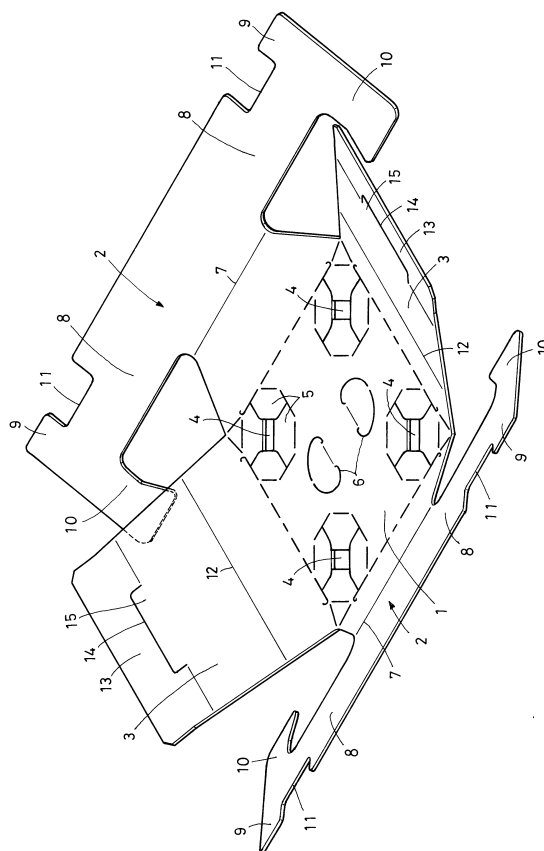
10

20

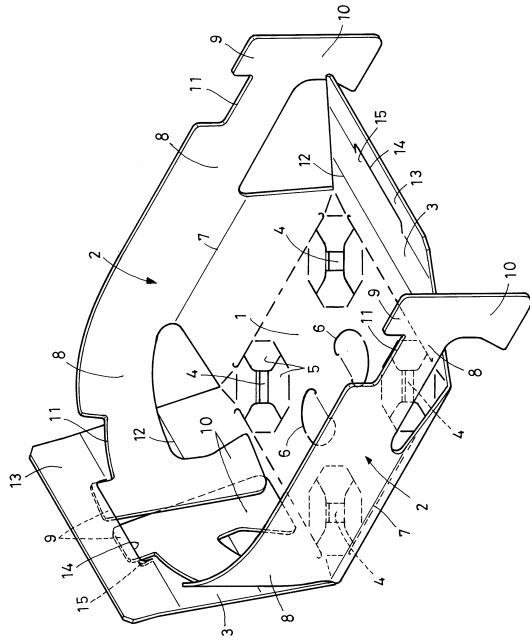
【図 1】



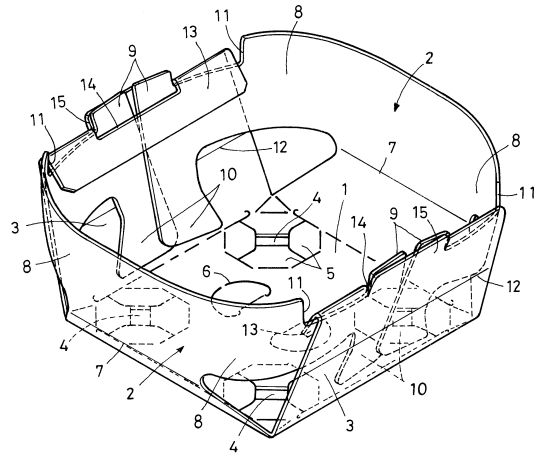
【図 2】



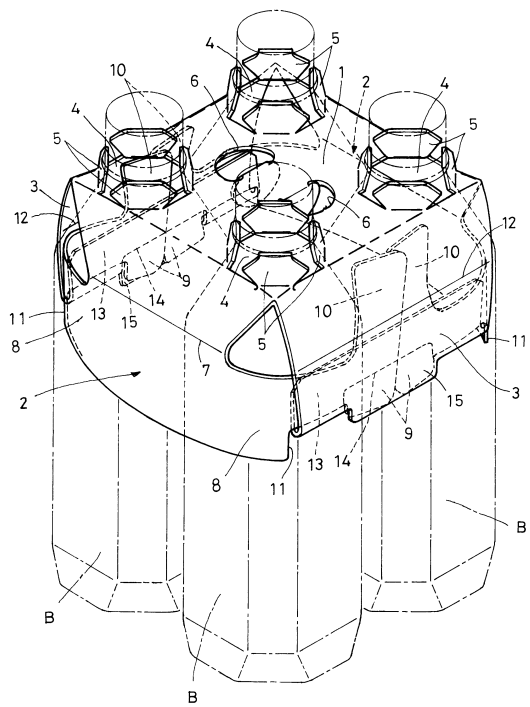
【図 3】



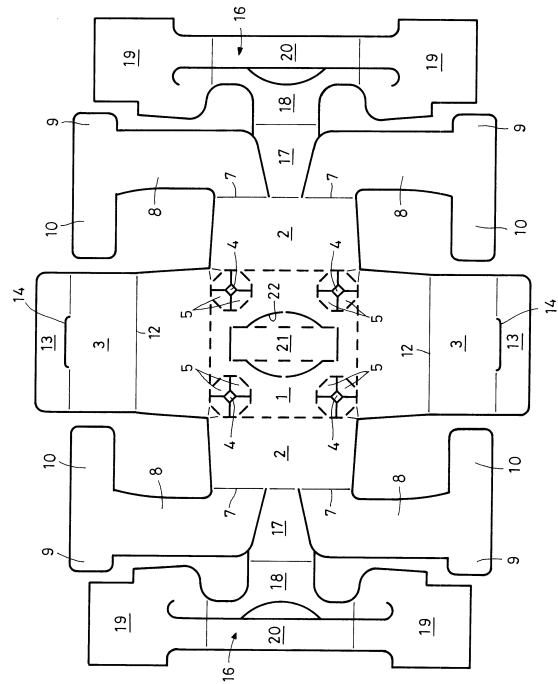
【図 4】



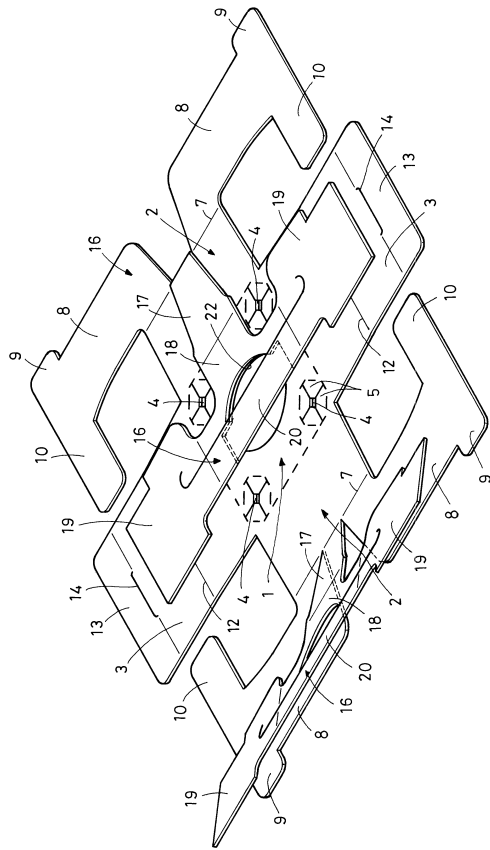
【図 5】



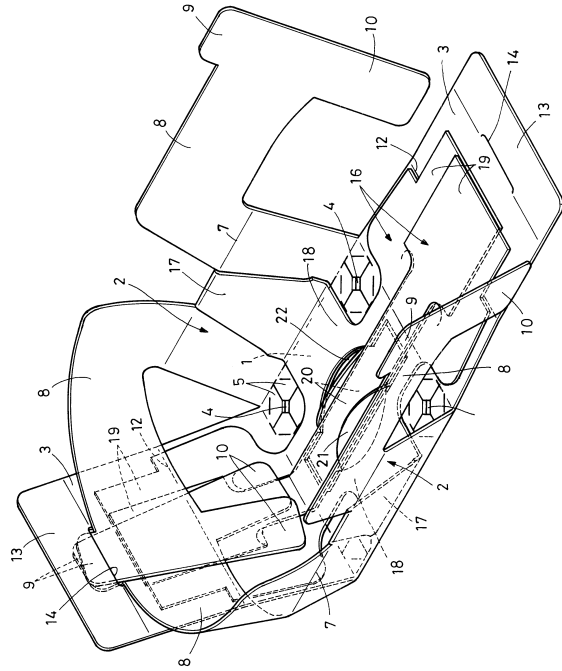
【図 6】



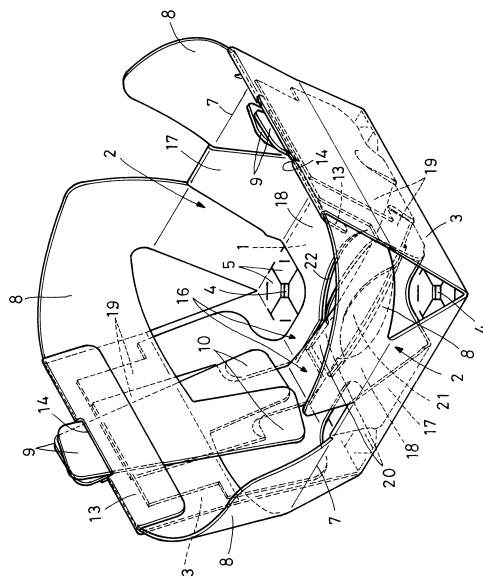
【図 7】



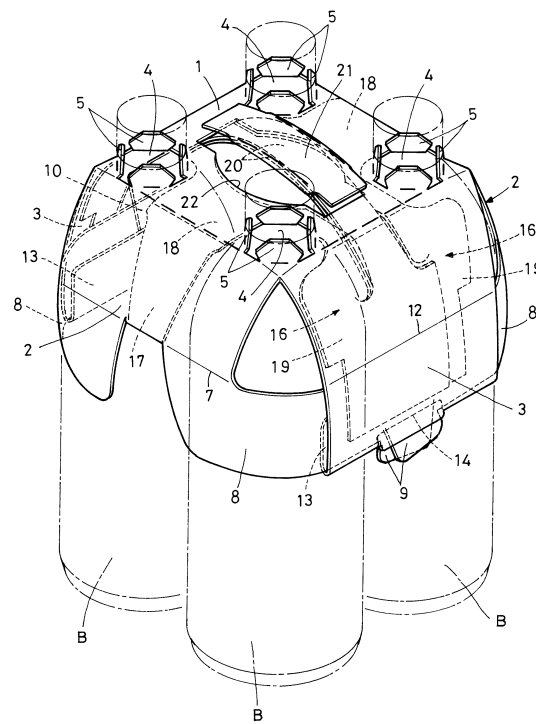
【図 8】



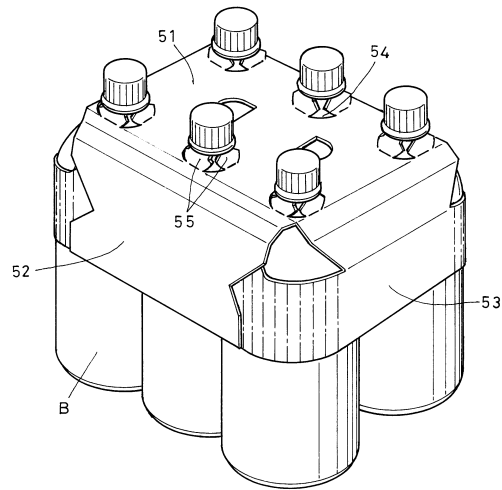
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(74)代理人 100161746

弁理士 地代 信幸

(74)代理人 100166796

弁理士 岡本 雅至

(72)発明者 中谷 康志

東京都港区港南2丁目16番1号 レンゴー・リバーウッド・パッケージング株式会社内

審査官 八木 誠

(56)参考文献 国際公開第2009/126518(WO, A1)

実公昭33-011487(JP, Y1)

実開昭48-076051(JP, U)

実開昭54-160419(JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D71/00、67/02、85/30

B65D5/22、5/46、5/50

L65D71/00、67/02、85/30、5/50